

スマートテレビ時代における字幕等の在り方に関する検討会
CM字幕ワーキンググループ（第1回）議事要旨

1. 日時

平成26年2月3日（月）13時30分～15時30分

2. 場所

総務省10階 総務省第1会議室

3. 出席者

(1) 構成員

音主査、寺島主査代理、木村構成員、近藤構成員、澤田構成員、島田構成員、菅原構成員、高橋構成員、林構成員、藤川構成員

(2) オブザーバー

藤田主査（内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付参事官（障害者施策担当）付）、
仲課長補佐（経済産業省商務情報政策局文化情報関連産業課）

(3) 総務省

福岡情報流通行政局長、南大臣官房審議官、長塩地上放送課長、徳光地域メディア
室長、梶田地上放送課課長補佐

4. 議事要旨

(1) 福岡情報流通行政局長挨拶

開会に当たり、福岡情報流通行政局長より挨拶が行われた。

(2) 開催要綱等について

開催要綱、議事の取扱いについて確認が行われた。

(3) 事務局説明

事務局より、資料に基づき、CM字幕の現状及び検討課題について説明が行われた。

(4) プレゼンテーション

木村構成員、菅原構成員から「字幕付きCM放送の本格実施に向けて」について、林構成員から「字幕付きCMへの取り組み」について、それぞれプレゼンテーションが行われた。

(5) 意見交換（構成員の主な発言は以下のとおり）

○寺島主査代理

- ・CMの字幕の位置や大きさ等の規格については、聴覚障害者の方等、実際に利用する人の意見や評価を聞きながらつくっていく必要がある。

○近藤構成員

- ・字幕（オープンキャプションやテロップ等）と字幕放送とを区別されていない高齢者も多いのではないかと。
- ・放送局ごとに異なる放送システムでも、問題なく字幕放送が送出できる新しいシステムをつくっていただけるとよい。
- ・字幕放送の理解と普及についてテレビで説明し、字幕付与に必要な寄付を募っても良いのではないかと。

○澤田構成員

- ・字幕の位置、色、大きさ、どの程度要約するか等の表現の仕方については、ノウハウが必要であり、ユーザーが見る立場から今後課題として取り上げていただきたい。

○林構成員

- ・特にCMの場合は、15秒とか30秒という限られた時間の中でどのように字幕付与するか工夫が必要であり、広告主と相談しながら決めていく必要がある。

○島田構成員

- ・CMに字幕を付与できる制作会社、ポストプロダクションは、事実上1社しかなく、そこがノウハウを蓄積している。字幕付与の取組を広げていくには、そのノウハウの共有が必要。

○藤川構成員

- ・トライアルをしている広告主の中には、字幕付きCMを制作する際、障害者の方に見てもらって制作意図が伝わるか確認するなど、字幕制作のプロセスにかなり関与しているところもある。

- ・字幕を付与する際には、できるだけ見やすく、広告の画面に極力被らないようにする等の工夫が必要。

○高橋構成員

- ・CMに字幕を付けることによる追加的なコストは基本的に広告主が負担し、トップ企業や特定のカテゴリーの企業が理念を持ち、トライアルの意義を理解して取り組んでいる。
- ・アドバイザーズ協会としては、その他の広告主についてもCM字幕に取り組む事ができるような環境整備を進めているが、もう少しトライアルを続け、取り組む会社が増え、各業界で課題が共有され理解が促進されることが必要。
- ・広告主が広告を流す際には、番組の視聴者の興味等の属性を考慮して行動しているという基本を理解して、議論を進めていただきたい。